

松井田高等学校 学校評価一覽表 ② (令和3年度版)

(様式2)

羅 針 盤			達成度			改善状況のまとめ	学校関係者評価	次年度の課題
評価対象	評価項目	具体的数値項目	①	②	総合			
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 生徒の実態を踏まえた教育課程・授業計画を設定していますか。	① 少人数・コース制等の目標や内容を聞き、自分にあったコース選択ができていると感じている生徒が80%以上である。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 少人数・コース制は本校生徒の実態に合致している。さらによりよい在り方を検討していく。 ○ MVC活動ではコロナ禍で地域の行事への参加が制限されるなか、観光振興に関わるイベントへの参加や清掃活動など、新たな地域連携の形を確立することができた。また「総合的な探究の時間」や家庭科の授業でも地域教材を活用し、地域の方を講師に招くなど、地域と連携した活動を推進した。活動に参加した生徒は、地域の方々と触れあい、自己有用感を持つことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単なる学力向上だけでなく、地域との結び付きとカリキュラム、授業内にも盛り込まれ、実体験する中で総合的な育成を目指した活動は素晴らしいです。少人数グループ、コース選択による教育システムは生徒自身の成長実感を得られる効果的な施策だと思います。 ○ MVC活動で地域の行事参加がもっと増えると良いです。 ○ 地域や生徒の実態を踏まえMVCなど適切な活動を設定し、特色ある学校づくりに努めていると思います。コロナ禍で十分な活動ができなかったと思いますが、その精神から生徒達の心は健全に育まれていると感じます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 少人数・コース制について、さらによりよい在り方を検討していく。 ○ MVC活動については、参加者が限定される傾向があるので、多くの生徒が参加できるように啓発や活動内容を工夫したい。MVCをはじめとした勤労体験学習は本校の特色である。コロナ禍にあっても地域とのつながりを大切に、生徒の健全な育成を図ると同時に、地域に元気と活力を与える存在となれるような津堂を推進していきたい。
	2 地域社会と連携した特色ある教育活動(総合的な探究の時間等)を行っていますか。	② 「ハートフル松高(地域学習・体験学習・ボランティア活動等を推進している学校環境)」に満足し、自分の学校が好きだと感じている生徒の割合は80%以上である。	B	B	B			
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	3 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	③ 本校での授業に対して、生徒の80%以上が満足している。 ④ コース制の特徴を活かした資格試験や検定試験に、80%以上の生徒が積極的にチャレンジしている。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実施可能な場面でアクティブ・ラーニングの視点に立った授業展開を行った。教員相互の授業見学を行い、本校生徒の実態に合った指導の工夫を図った。 ○ 検定試験の受検を促した。毎時間の授業の中で知識・技能を高める動機づけを行った。 ○ スタディサプリの活用を家庭学習につなげる工夫を継続する。 ○ 各教科活動において学習の重要性を繰り返し伝え、授業アンケートを実施し自己評価を促した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3年間という限られた中で、学力向上、知識習得に留まらず、資格取得は社会に出る際の力になります。また、それに伴い得られる自信はさらに大きな力となり生徒自身の意欲となって厳しい社会の中でも成長されるものと考えます。先生方のご苦労は大きいと思いますが引き続きのご指導をお願いします。 ○ 指導できていると思います。 ○ 中学校では一人一台の端末が配布され、ギガスクール1年目が終わります。授業で、家庭でICT機器を活用してどのように学力向上につなげていくことができるかは中高共通の課題でしょうか。今後も情報交換を進め、成果と課題の共有ができると良いです。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ アクティブ・ラーニングの視点に立った授業展開を継続する。 ○ 毎時間の授業の中で知識・技能を高め、検定取得の動機づけを行う。 ○ 校内研修等により学習端末を使った授業について意識を高める。また、できる部分から学習用端末を利用した授業を行う。 ○ 引き続き授業アンケートを実施し、生徒の実態に合った授業展開を工夫する。また、生徒の自己評価を促し、自己肯定感を育む働きかけを継続していく。
	4 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑤ 学力が身に付いてきたと感じている生徒が80%以上である。 ⑥ 授業に意欲的に取り組むようになってきたと感じている生徒が80%以上である。	A	B	B			
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	5 学校生活やいじめ防止について組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑦ 毎日充実感を持ってクラスや学校生活を送っている生徒が80%以上である。 ⑧ いじめの発生防止に努めるとともに、早期発見に向けた取組を積極的に行っている。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ コロナ禍のなか、様々な行事の自粛や、部活動の制限があったが、出来る範囲の中で、縮小、方法、内容等の変更により対応し、少しでも学校生活が充実するよう、思い出に残る行事等を計画した。 ○ いじめについて、数件認知、認定されたが、いじめ対策委員会において適切に対応した。 ○ コロナに対する感染防止措置につき、日々変化する状況に対応した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 最も多感であり、エネルギーのある生徒に対して正しく適切な指導を行うことは大変なことと考えます。併せてコロナ禍を踏まえて、精神的にも健やかに生活するためのきめ細かい指導の様子を拝見しておりますし、卒業生からも確認させていただいております。 ○ いじめも多種多様になり大変かとは思いますが、双方からの聞き取りをお願いします。 ○ 学校長や生徒指導主事に度々足を運んでいただき、中高それぞれの立場や生徒指導の方針を理解することができ大変有難かったです。今後も生徒の健全育成のため、情報共有をお願いします。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ コロナウイルスの感染状況にもよるが、充実した学校生活を送らせるために、部活動の活性化や学校行事の充実を図り、生徒が自主的主体的に行動できるよう学校生活全般で配慮していきたい。 ○ いじめ防止については、引き続き人権についての指導等を充実させ、他を尊重する態度を育成することにより、1件でも少なくなるよう努力する。 ○ 引き続き感染症対策の徹底をし、健康維持への意識を高めさせ、安心・安全な学校生活を目指す。学校生活アンケートから生徒の声を敏感に拾って、相談等につなげる。
	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑨ 健康維持に前向きに取り組む、基本的な生活習慣を確立して始業や授業に遅刻しないよう努力している生徒が80%以上である。	A	A	A			
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて計画的に取り組んでいますか。	⑩ 自分の能力、適性、関心について客観的に考え、進路希望の実現に向けて、真剣に努力していると自覚している生徒が80%以上である。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 希望する進路の情報の取得や、自分に必要な力についての理解はある程度できているが、それに対応した行動や努力についてはまだまだ不足している。進路行事の時だけでなく、学校生活の様々な場面で指導していきたい。 ○ 講演会、説明会、発表会、配布物、掲示物、メール等様々な方法で生徒に情報提供できたが、今後、生徒が欲しい情報は何かを調査し、必要な時に必要な情報を提供していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 18歳成人認定とも重なり進路選択の難しさが増す中、生徒一人一人の希望、適正、能力等とご家族の意向も考慮されて指導されるのは大変だと思います。引き続きお願いします。 ○ 進路について話し合うことができ、指導していただいていると思います。 ○ 中学校でも親子の会話を引き出すタイムリーな進路情報の提供は課題の一つです。生徒や保護者が真に必要な情報は何か、ニーズを把握することはとても大切だと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 進路についての様々な情報や活動が進路選択について考える機会を与え、将来的にどのように活かされるのかを意識させる指導を心がける。 ○ 引き続き必要な時に必要な情報を提供できるように、内容及び方法を工夫して発信する。
	8 適切な進路情報を提供していますか。	⑪ 進路通信や学年通信を通して、進路に関する適切な情報を得られていると感じる生徒や保護者が80%以上である。	B	B	B			
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑫ PTA総会や保護者会等の学校公開に積極的に参加している保護者は80%以上であり、また、学校からの情報発信に満足している生徒・保護者は80%以上である。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ PTA行事のほとんどが中止となり、学校公開を行うことができなかった。それを補うため、夏期休業中の保護者面談等で学校の様子を直接保護者に知らせる機会を設け、メール連絡網を利用した通知・連絡も積極的に行った。webページの更新も行っているが、どのようにして保護者や地域の方々に見てもらおうかが、課題である。MVC活動では観光振興に関わる活動に参加し、地域との連携を図ることができた。 ○ コロナ禍により学校内はもとより、外部交流に相当の制限がある中での取組には、大変なご苦労があったと思います。その中でもIT機器の活用によりコミュニケーション促進の取組は評価されるものと考えます。 ○ Webページをもっと見るよう心がけたい。 ○ コロナ禍により保護者や地域の方々に学校理解を促すための情報提供や連携がとても困難な1年間でした。中学校ではタブレットを通したオンラインの活用を考えています。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校からの情報発信や保護者への連絡を徹底させるため、メール送信やタブレット端末の利用を進める。また可能な範囲でPTA・生徒会行事などで、生徒・保護者・地域の方々が参画し、共同・協力できるような体制を作っていく。 	
VI 教育のデジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑬ ICTを活用した授業に、生徒の80%以上が満足している。	B	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各教員が工夫を重ねクロームブックを活用している。活用事例の共有方法を工夫していく。 ○ デジタル化が業務の軽減につながるよう、できるところから実践していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ICT、クロームブックは社会の流れとして重要性は高まると思うので、業務軽減だけでなくコミュニケーションツール等としても活用度の向上を図られることを期待します。 ○ デジタル化を推奨したいです。 ○ 学習指導要領の趣旨を生かし、主体的・対話的で深い学びを促し、わかりやすい授業づくりのツールとしてタブレットの位置づけを再認識して教材研究を進めていきましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 引き続きクロームブックの活用を促進する。教員間での活用事例の共有を促す。 ○ 保護者への連絡を徹底できる体制としてメール送信や配布済みのクロームブックの更なる利用を考える。
	11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	⑭ ICTを活用した通知・アンケートに、生徒・保護者の80%以上が満足している。	B	B	B			

